

10. 農林水産業

	タイトル	意見等
1	こぼちゃんとスダチ	今日(10月6日)の読売新聞の4コマ漫画こぼちゃんにスダチの事が載っています。すかさず作者に知事名でスダチの3箱や5箱を贈るべきと考えます。
2	森林立県・林業立県 とくしまに向けて	○後藤田正純徳島県知事様がミス日本みどりの大使を通じて、徳島すぎ(木頭すぎ及び祖谷すぎ)のトップセールスをしてください。 ※ 具体的には、徳島すぎのブランド化の推進 ※ 具体的には、徳島すぎを利活用しての森林浴のヘルス・ツーリズムの推進
3	農林漁業立県とくしまについて	○後藤田正純徳島県知事様が豊かな自然に恵まれた徳島県において、農業・林業・漁業の充実が徳島県の地域社会の発展と前進に不可欠です。また、農業・林業・漁業の第一次産業は食料自給率の向上や災害リスク回避に対する備えとしても重要な基幹産業です。後継者不足や担い手不足を解消し、持続的かつ安定的な農林水産業の経営を物心両面から支援と後押しをしてください。そして、徳島県の第一次産業の将来に明るい灯を灯してください。
4	リスキリングに資する講座設置について	林業架線作業主任者について他県では経験年数を短縮できる講座を開講しているが、県木材創造センターの講座では短縮扱いになるのかも不明で、講習期間も短い。三好林業センターも含めて講座内容を拡充した方が良いと思う。また、再エネの伸びで第3種電気主任技術者が不足している。大阪府のテクノ講座が参考になるが、県テクノセンターを活用して取得講座を設けてはどうか。他に技能講習の開講数が少なく、他府県に足を運んで受講しないと県内で受講できないものも多い。就労支援の観点からも県内公的教育機関の有効活用をもっと図らないと施設を遊ばせていても経費がかかるだけで県収入にもならない。もっと既存施設をしっかりと活用して欲しい。
5	イノシシ・鹿・さる等の害獣対策について	本県においては、害獣により地域に深刻な被害が出ております。 田畑は言うに及ばず、町中まで出没し農地には電気柵やメッシュの金網・トタン板で作物を守るなど対策しておりますが被害は誠に深刻です。特にイノシシは山間部ではカズラの根やミミズをえさにするため深い穴を掘り、竹林ではたけのこをえさにするため、深さ1mもの穴を掘ります。傾斜地ではそこから崩落がはじまり大きな災害につながります。2021年5月17日付け徳島新聞には、剣山山系での鹿の食害が取り上げられています。5月に剣山へ行くことがありますが被害は深刻で、土砂の崩落により登山道も危険な箇所が多くあります。また、県西部は植林をするとき苗木一本一本に白い網(筒状の物)を巻いて鹿から保護しています。その景観は、山全体が白い墓標に覆われたようになっています 猿は高齢者が自家用に作っているわずかの野菜も食べ荒らし住民は食べる物にも困る状況にもあります。 市町村でもいろいろ対策をしていると思いますが、市町村での対策は限界があり、動物は毎年増える一方です。県が主導して広域で効果的な害獣対策をしないと、地域は疲弊する一方です。インターネットの、『広域鳥獣クラウドサービス(実証実験)』、『有害獣捕獲支援システム「わなフォト」』、『鳥獣捕獲管理支援デジタルシステム』で検索すると農林水産省や各地の取り組みが 載っております。また、アメリカのイエローストーン国立公園ではアメリカアカシカや他の動物が増加し、植生に大きな被害が出て対策のために行われた「オオカミの再導入」、「オオカミを導入してから25年イエローストーン公園の生態系が安定したことを確認(アメリカ)」を検索すると昔の自然が回復したようです。YouTubeには「移動式地獄檻と遠隔捕獲装置でサル大量捕獲ー協和リクレイム」に猿の捕獲例や他社の罠などがのっています。狩猟には猟犬が必要ですし、多人数で狩りをする必要がありますが高齢化で人がいません。ICTを利用する経費や県が車両を購入し広域でのわな等を移動を支援するとか害獣対策に直接関わる人件費の負担等幅広い対策が効果的かと思います。 害獣対策や捕獲した後の活用についても思い切った施策をお願いします